

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

さあ！県伊祭！！～組織（集団）を動かす原動力とは・・・～

いよいよ4年ぶりに一般公開を行う「県伊祭」が近づいてきましたね。

各クラス・各部活動という**集団・組織**で準備が進められています。

ところで・・・「アサヒの森」って知っていますか。東京から遠く離れた中国地方にあります。

飲料のアサヒグループが飲料とは切り離せない・・・水のために・・・森を育てるという悠久の仕事・事業をおこなっているそうです。しかも・・・**わずか・・・4人の社員の手で**・・・

そのアサヒグループの社友の福地 茂雄さんが・・・

「**組織(集団)を動かす原動力**」について、次のように述べられています。



以前、小さな組織に転職になった人が・・・

「自分は左遷になった・・・」

と嘆いているのを聞いたことがあります。

しかし、今の企業に不要な歯車を持つ余裕などなく、左遷の組織も存在しません。

すべて必要な歯車であることを自覚し、赴任先で持てる力を最大限に発揮すべきです。

私自身、入社時から10年近くは小さな歯車でした。

私のような小さな歯車などあってもなくても企業という大きな歯車の動きには全く影響しないのではないかと寂しく思ったこともありました。

しかし、私のような小さな歯車が皆同じ思いを抱いてしまえば、企業体という大きな歯車は動きをなくしてしまう。

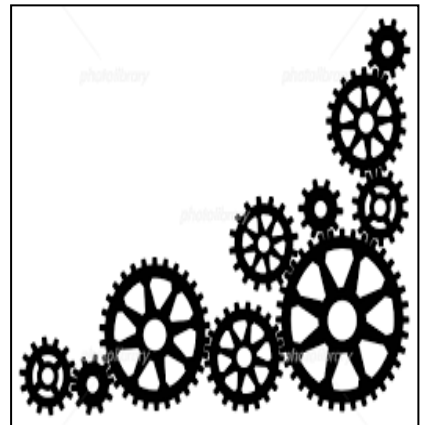
そう思い直し、たとえ小さな歯車であっても自分に与えられた機能を精一杯果たすべく、決意を新たに目の前の仕事に・・・一所懸命打ち込んでいったのです。

組織は大きな歯車と小さな歯車がうまくかみ合った時、円滑に動きます。

「1つとして不要な歯車はないことを心に刻み、自分の置かれた場所で、自分の務めを精一杯果たしていきたいものです。」

標準的な腕時計は何と・・・数十から数百の歯車関わって1つのメカとして機能しており、1つの歯車でも不備が生じれば時計全体が止まってしまうというのです。

これは、企業という組織体でも同じことが言えます。一人ひとりが同じ目標に向かって動く大切な歯車なのです。



「致知」6月号巻頭の言葉より

上記の「企業」・「組織」という言葉を・・・「県立伊丹高校」や「〇年〇組」や「〇〇部」に置き換えてみたら・・・

一人ひとりが「自分が楽しむ」だけでなく・・・「県立伊丹高校の」「クラスの」「部活動の」大切な歯車であることを自覚し、「県高生」だけでなく・・・「県伊祭」に来校される多くの方々も笑顔にする、楽しませる。そして・・・それに喜びを感じることのできる、そんな経験をする「県伊祭」になることを願っています。